

免疫血清分野

尿一般分野

病理分野

**細胞診分野**

血液一般分野

生化学分野

先天性代謝異常分野

**細菌分野**

## 細菌・細胞診依頼書への臨床症状記入のお願い

～より良い検査結果をお返すために～

細菌・細胞診検査は機械検査とは異なり、検査技師の判断が結果に大きく関係します。そのため、正しい検査結果をお返すするには臨床所見（症状）が判断材料として必要になります。

### 【細菌検査】

細菌検査は、検体や目的菌により検査条件が異なります。（培地・培養環境・培養温度）

培地は、検体から病原菌や起因菌を取り出すために用いられ、適切な培地を選ぶ必要があります。培地には、選択性の少ない非選択培地と、菌の分離・鑑別を容易にする選択性のある選択培地があります。このように培地や環境を選択するうえでも、目的菌や感染の既往歴等の臨床症状が重要となります。

以上により予め目的菌が分かっている場合は、依頼書Ⅱの目的菌チェック欄と一般細菌培養や腸管病原菌培養と同時にお願いください。依頼書Ⅱにチェック欄がない場合は、通信欄にご記入ください。

例) MRSA・サルモネラ菌が目的の場合

・MRSA を目的とする場合

選択性のある選択培地を使用し、他の菌を抑制しMRSAを優位に培養します。

・サルモネラ感染症の再検査の場合

治療を行うことで菌量が少量になるため、液体培地でサルモネラ菌を増菌し検査します。

### 【細胞診検査】

細胞診検査の主たる目的は異型細胞の有無を判定することです。しかし、種々の条件により細胞は変化し、良悪性の判定に苦慮する場合があります。そのような様々に変化する細胞を判断する上で、臨床情報や既往歴はとても重要になります。以下に細胞診検査依頼書へ記入いただきたい内容を材料別にお示し致します。

細胞診専門医へは臨床情報と併せてご診断いただいております。

細胞診検査依頼書へ記入いただきたい内容（共通で必要な内容：臨床診断、臨床症状）

・婦人科：最終月経、閉経、ホルモン療法の有無等

・泌尿器：治療の有無

・体腔液：腫瘍マーカー、アスベスト暴露の既往

・穿刺材料(甲状腺・乳腺など)：画像所見

・呼吸器：腫瘍マーカー、喫煙歴、画像所見

・口腔材料：採取部位、肉眼像写真の添付

**臨床情報や既往歴は、細胞診検査依頼書の下段太枠内にご記入ください。**